香葉

1994 NO.23

目　次

講演会への御案内……1
学長あいさつ……小玉敏子……2
会長あいさつ……古城房子……3
合同同窓会……3
女専のページ……岸　貞子……4
吉田澄子
覚え書　—21—……上市二郎……6
英文近況……徳永　透……11
家政近況……和田淑子……11
留学生活の思い出……徐　維玲……13
楊　淑子
講演会要約……渡辺亮子……14
訪問記……16
香葉室……19
クラス会報告……24
図書館から……奥村博之……27
バブル崩壊後の就職……中村英夫……28
日本比較文学会東京大会……29
母校ニュース……30
決算・予算……31
賛助金……32

表　紙……関　頼武
カット……漫画研究部

－幻想的、詩的な文体で読者を魅了する多才な作家－

『大庭みな子先生　講演会』

今回は数々の文学賞を受賞され、芥川賞選考委員でもいらっしゃる、大庭みな子先生をお迎えしてお話を伺います。ご期待下さい。

テーマ：『私と文学』
日　時：1994年10月30日（日）
午後１時
場　所：図書館棟５Ｆ・視聴覚教室

▼講師の紹介▼

1930年11月11日　東京に生れる。
1953年　津田塾大学英文学科卒業。パルプ会社技師の夫君の勤務地、カナダ、アメリカに長期滞在。
1968年　外国生活の実態を描いた異色の作品「三匹の蟹」で群像新人賞、芥川賞を受賞。文筆生活に入る。
1991年　芸術院会員。
現在　日本文芸家協会理事、日本ペンクラブ副会長。

▽主な著作▽

○虹の浮橋
○構図のない絵
○桟橋にて
○がらくた博物館　　'75年女流文学賞
○寂今寥今（かたちもなく）'82谷崎潤一郎賞
○啼く鳥の　　'86年野間賞
○海にゆらぐ糸　　'89年川端康成賞
○津田梅子　　'91年読売文学賞

★香葉会の部屋★ご案内

卒業生と在校生、教職員の交流の場として、又卒業生の部屋として３号館106号室にて、コーヒーとお菓子のサービスをいたします。お友達同志・ご家族お誘い合わせの上お立ち寄り下さい。

※　10月29日・30日　　両日とも開室いたしております。
※　クリスマスツリー・小物等の販売もいたします。

短大の近況

学長　小玉敏子

皆様、お元気でいらっしゃいますか。いつの間にか一年が過ぎ、また近況報告を書く時期になりました。

まず人事について申しますと、一九六九年、家政科を専攻分離して食物栄養専攻が設置されたときに就任された山口和子教授が定年を迎えられましたが、特約教授として引き続きご指導くださいます。また、教職課程の三枝源一郎特約教授が退職されました。新任者につきましては別にご紹介があると思いますが、帆苅猛助教授（宗教主任、「キリスト教概論」）、香取真理子専任講師（英文科）、新井勇治特約教授（家政科）、井上恵美子特約教授（教職課程）をお迎えしました。

食物栄養専攻開設二十五年を迎えた今年、専攻科に食物栄養専攻（定員十名）が設置されました。学位授与機構の認定も受けましたので、「学士」を得る道も開かれたことになります。また、専攻科の一年を含めて三年制の栄養士養成施設として認められましたので、一年の実務経験をすれば、管理栄養士の国家試験を受けることができます。募集期間が短かったので、志願者がいるかどうか心配でしたが、七人が入学しました。順調な滑り出しといえます。

今年も昨年より十二パーセント志願者が減少しました。十八歳人口が一昨年の二〇五万人をピークに、昨年は一九八万人、今年は一八六万人と減っていますから、止むを得ませんが、引き続き、魅力ある短大づくりに取り組んでおり、各科とも教育内容の充実に力を入れています。学生会館の新築は当分望めませんので、今年は第一ルツ寮を改修し、学生がもっと利用できるようにする予定です。

昨年の卒業生は最終的には希望者全員が就職しましたが、今年は九割にとどまりました。しかし、幼児教育科は九十八パーセントが就職し、その八十八パーセントは幼稚園教諭か保母になりました。

前号でカンザス州のオタワ大学の三年に英文科卒業生四名が編入したと書きましたが、今年も四名が渡米します。このオタワ大学のガーマー学長ご夫妻が昨年八月に本学を訪問されました。短大だけでなく、大学の三つの校地（六浦・釜利谷・小田原）も、内藤理事長のご案内でごらんになりました。また、横浜教会、捜真女学校などにもお連れし、バプテスト関係の方たちやオタワ大学の卒業生にお会い頂きましたところ、短い滞在期間に多くの人々に会えて非常に有意義な訪問であったと喜んでお帰りになられました。

三月にも外国からのお客様を二組お迎えしました。まず、中国から北京第二外国語学院の常殿元院長ほか二名の方たちがお見えになりました。この大学から横浜市内の大学に交換教授として来られる先生を本学に非常勤講師として毎年お願いしております。中国語は人気があり、今年の履修者は六クラスで二四三名です。

つづいて来訪されたのは、神奈川県の姉妹州、メリーランド州のさまざまな分野で活躍する女性十一人でした。大谷先生とバンビューレン先生にも出席して頂き、二時間にわたり、女子の進学率、女子学生の就職などについて質疑応答が行われ、大変有意義でした。

最後に、短大にとって前途多難な時代でございます。今後ともご支援くださいますようお願い申し上げます。

香葉会から

会長　古城房子

香葉会は本年四月、九四九人の新入会員を迎えました。年々増え続けているということは、新しい専攻学科がふえ、内容が充実していることが評価された結果でしょうが、これからは、どうでしょうか。私の家の近くの小学校の今年度入学児童は二十五人の級が二ツだけとのこと、且つては四十人以上が六組あった学校です。学生が減らないように卒業生の皆様のご協力をお願いします。皆様の賛助金のお蔭で、昨年も無事に活動をすることができ感謝しております。留学生の受験者も年々ふえているようで、今年は四人の中国、韓国、台湾、モンゴルからの留学生に奨学金を差し上げます。ささやかな金額ではありますが、卒業生として、日本に来て勉学される学生さんの多少の援助になれば嬉しいことです。日本は不況とは云いながら、まだ物は豊富で平和であるのは、ありがたいことですが、世界の各地では民族間の争いに巻き込まれた子供達や市民が貧困と病気に苦しんでいて、多くの人々が亡くなられているのを新聞やテレビで目にします。香葉会の年度委員で賛意を得ましたので、積極的に、こういう国に、医師、看護婦など人材を送り込んでいるボランティア団体に、年間予算の一％程度を寄附して、国際協力に参加したいと思っております。今年の総会は十月三十日に開かれます。どうぞ、お出かけ下さいまして、久しぶりの母校の様子をご覧になり、意義ある講演会をお楽しみ下さい。

今年三月には新しい名簿も出来ました。ご希望の方は、お申込み下さい。会誌「香葉」も「香葉室」で皆様のお便りを紹介しておりますが、できるだけ沢山の声をのせたいと思いますので、近況をお知らせ下さい。お待ちしております。

（短英1）

合同同窓会報告

平成六年度の関東学院同窓会評議員会（合同同窓会総会）は六月二十四日（土）、相生本店で開催。香葉会から九名の評議員が出席しました。会長は六葉会会長の田野井氏が五期を務められます。司会は六葉会の西岡氏で、来賓として内藤理事長、石田院長、短大小玉学長、六浦中高永野校長が御出席になり、それぞれの学校の状況についてお話しがありました。その後評議員組織にうつり、議長に燦葉会の小後摩氏、書記に橄欖会の植村氏が決まりました。次に報告事項になり、幹事長より平成五年度事業報告、会計より決算報告、同監査報告に続いて、会長が任期のため新会長選任の件で、会長推薦委員会が推す六葉会の田野井氏が全員一致で再任され新会長に決定しました。更に各部会報告があり審議事項に入り、平成五年の事業の一つとして会則検討委員会が発足し、委員長に橄欖会の矢沢氏があたり、六回ほどの会議の後、改訂案が示され、可決決定しました。幹事長より平成六年度事業計画案、収支決算案が提示され可決された。新会長の挨拶があり、燦葉会の遠藤氏が、閉会の言葉を述べられ幕を閉じました。

（相吉記）

女専のページ

定年を迎えて

岸　貞子

今まで、自分が生きてきた歳月の半分以上を教職に身を置いてというよりは、のめり込んでいたという方が、適切なのではなかったかとの思いが今さらのごとく脳裏をかすめている現在ですが…。定年というものが自分に回ってきて、いや応なしに老齢社会への仲間入りをせざるを得なくなりました。

桜の蕾がふくらんだ頃、四十二名の生徒達から手渡された数々のプレゼント、大きな花束、手紙にしたためられた彼女達の心の思いにふれて過ぎた日々を想い感傷に浸る現在なのです。渇いた日頃の女学生に接していて、自らも時代の流れと割り切っていたつもりでしたが、あふれる涙を払いもせずに、別離をおしんでくれた時、教師冥利に尽きる思いで一杯でした。三十五年間大きく時代は移り変わりましたが、人の心は基本的には、少しも変わっていないことを、改めて認識されたのです。

教えることが、当然の仕事であると自他共に認め、その繰り返しをリズムに乗せて歩んで来たのですが、実際には、生徒達から数多くのことを学ばせてもらっていたことに、気づかされました。

親と子二代にわたっての担任をしたこと、又、傷つきやすい世代の女生徒達と共に語り苦しんだ日々のこと、又、歳を忘れてはしゃぎ回った日々のこと等々…。家族と過ごした時間よりも職場で過ごした時の方が遙かに多かったのではないでしょうか。そして、そのような日常が当たり前の如く身についてしまった自分を、改めて省みるのです。今大勢の卒業生から、「定年お目出度うございます」との祝福を受け、「長年ご苦労様」のねぎらいの言葉に始めて、可もなく不可もなく過ごした幾年月を想い起こすのです。

神から与えられた残りの日々は、新しいスタートでもあり、自由に自ら選ぶことのできる時間なのです。そして、又、少ない大切な時であるのかも知れません。過ぎた日々にとらわれることなく良き道を見つけて命ある限り歩き続けていきたいと願っているのです。

（女専家政2回）

羽生の農業地区の行事と料理

吉田澄子

羽生の農村地区が都市化し、工業地帯に変化して行く現在、土地の習慣と料理等まとめてみました。

春。(一)雛祭り。三月三日、女の子のお祭りで、桜もち、草もち、田舎寿司、甘酒で祝う。(二)遊散(ゆさん)。三月三日、昔の嫁の休日、婚家に帰る時、赤飯、かまめし、大福等をおみやげにして帰る習慣がありました。(三)お彼岸(ひがん)。三月二十一日、「春分の日を中心に七日間」先祖や親戚の墓まいりをします。仏様にぼたもちを供え、だんごを作り墓まいりをします。(四)花まつり。寺院では、お釈迦様を花の厨子(ずし)に飾り、甘茶をご馳走し、草もちや卵を食べると中風の予防になるとも云われています。(五)春のお日待ち。四月十五日、土地の氏神様の春の祭りで、農繁期前の休養日で「あんびん餅、手打ちうどんを食べ、あんびん餅を持って生家へ泊りに行ったものです。(六)八十八夜。五月二日、立春から八十八日目「八十八夜の分れ霜」と云って苗もの、里いも、ごぼう等の床がえをします。(七)端午(たんご)の節句(せっく)、男子の祭り。「子供の日」鯉のぼり、兜飾(かぶとかざ)りで祝い、一年間の魔病よけに、

しょうぶとよもぎを屋根にさし、しょうぶ湯に入ります。(八)さなぶり（野あがり）。六月下旬、田植えの終了祝い、手伝ってもらった人に感謝のしるしに、ぼたもち、手打ちうどんをご馳走し、又馬や農具も洗い清め、酒をかけたり、ぼたもちをご馳走、奉公人は小使いをもらい、楽しみとなっていました。(九)初山。六月三十日、浅間神社の祭りで、生まれた赤児に晴着を着せお詣りすることを初山と呼び神社で、ひたいに判を押してもらい、健康な成長と出世祈願をし、神社で受けた「うちわ」に赤飯をつけ、近所や親戚に配ります。

夏。(十)「祭り」。㈠天王様　七月七日～七月十五日、氏子が総出で氏神様にのぼり旗を立て、みこしを出し、悪病よけ、麦の収穫を感謝し農作祈願をし、祭ばやしを奏でみこしをもみます。又今年とれた小麦粉で、いがまんじゅう、手打ちうどんを作りご馳走します。又お獅子を出し一年の厄払いをします。㈡石尊講　七月二十八・二十九日、作物の神で大天白に詣で農作祈願をします。土用餅（あんころ）をつき、夏バテを防ぎます。㈢八雲神社の輪くぐり　七月三十一日、大鳥居にわらで作った筒を輪状にし、其間を子供や大人がくぐり魔よけとしました。(十一)七夕。八月六・七日、夏の夜空に織姫と彦星が年に一度だけ、天の川をはさんで逢う事の出来る日です。六日の午後に色紙で作った短冊に願い事を書いて竹笹に吊し軒先に立て、まこもで作った一対の馬を飾ります。此の日は、昼うどん（ひも川）と天ぷらで、天空の大ロマンに思いを馳せる一日です。八日には、これらを川に流してしまいます。(十二)(寺)「ぼんこぶち」。七月下旬・八月一日、盂蘭盆を迎える準備で、盆供と云って寺に供物を届け、墓の清掃をします。過去一ヶ年間に亡くなった家では新盆と云って盆ちょうちんを点します。盆供には、昔は米、野菜等でしたが、今ではお金が多くなり、又お寺から引き茶を頂きお盆に使います。「お盆」八月十三～十六日、お盆棚を座敷に作り先祖の霊を迎え、もてなす日。十三日を迎え盆、十六日を送り盆と云い、お盆棚には竹と色紙、ほおずきを飾ります。十五日は朝、線香に火をつけ田の農廻りをします。お盆で帰って来て居る先祖に田の様子を見せ、豊かな収穫を願います。盆には「朝ぼたもちに、昼うどん、夕は米の飯でとうなす汁」と云われ、これらのご馳走を供えるほか、お客に出して親戚等との交友をはかります。

秋　(十三)八朔の節句。九月一日、嫁が生家に泊りに行き、秋の収穫の前に骨休みをします。婚家に帰る時、箕やます等の農具と赤飯やまんじゅうをおみやげにしたものです。嫁は婚家から「しょうがない嫁です。」の意で生姜を持たされ、「いたらぬ娘ですが、めんどう箕かいしてくれ。」という意で箕やますがみやげとなり、昔の嫁の地位が低かった事が、うかがえます。(十四)十五夜。陰暦八月十五日、中秋の月見で、縁先に「すすき」や「おみなえし」をいけ、だんご・おはぎ・栗・里いも・柿等丸い物を供え、御酒も添えました。お供え物を若い女の子には食べさせない。「竹取物語」のかぐや姫の様に、天に昇ってしまうからだと伝えられています。(十五)十三夜。九月十三日、十五夜と同じ月見の行事で、十五夜の月見をした家では必ず十三夜の月見をする様にと云われ、「片見月」は忌まれています。十五夜ではすすきを五本にし、十三夜では三本にするともいわれています。(十六)十日夜。十一月十日、畑の害虫を追い払い地中のもぐらをおどして追い出す呪い、大根が大きくなって地上にぬけ出る様に等の説があります。

（P10へ続く）

覚え書（二十一）

上市二郎

毎年、年度の変る時期を迎える頃ともなると学校から卒業式及び入学式の案内状を送っていただくが、余りにも学校から離れ過ぎた場所での生活のため失礼し続けていた。処が今年は従兄弟の娘が国文科に合格、彼女の入学式に両親が出席するというのでその案内役として私も出向いて教職員の皆様と暫く目に出合うことができた。チャペルの献堂式に顔を出して以来のこと、ここでの式典は初めてかな？しかも入学式は十年振りのこと、厳粛なひとときを過ごした。古い会員諸氏の為に少し記述してみよう。平成六年四月四日(月)が入学式、昔とは大違いで新入生の数が九百五十五名（学生数については総べて四月の短大月報による）午前十時から英文科（二三二名）幼児教育科（一二四名）経営情報科（一一〇名）専攻科英語専攻（一三名）計四八九名、午後二時からは国文科（一九二名）家政科は家政、生活文化、食物栄養の三専攻併せて（二六七名）専攻科食物栄養専攻（七名）計四六六名、という大世帯で午前・午後の二回に分けても父兄は一部を除いて別室に於いて三台のテレビで式に参加するという状況でした。特に本年からは専攻科食物栄養専攻が認可されて加わり、益々充実発展の途を歩んで行く様子が判って大変喜ばしい次第である。

さて、前回は紙名の都合で経済科・工科の廃止に伴って短大の名称変更が五月三十一日(金)の理事会で決定し、学長も白山源三郎先生に代わった所までだった。その後七月十五日(火)に再び学長が代わり、第三代学長として相川高秋先生が就任した。（香葉十九号参照）処で、今回はこの時点より少し戻ることとなるが、前号でも述べたように葉山小学校が学院葉山寮として使えるようになったので、新入生のクラスミーティングをこの寮で実施することになった。新しい学生が一日も早く学院生活に馴れ、短大の様子も判って行動がスムースに運ぶよう、そして友との出合い、その上教員とも遠慮なく話しが出来る雰囲気を作るため次のようなクラス別の集いが計画された。英文科一Aは五月十日(金)から十一日(土)指導者は相川、柳生、兵藤、安藤の諸先生、家政科一年は五月十七日(金)から十八日(土)指導には相川、桧垣、大河原の諸先生が当り、英文科一Bは五月二十四日(金)から二十五日(土)指導は相川、光畑、兵藤、永野の諸先生が担当した。以上は総べて午後三時から翌日の午前十時まで、寝食を共にした十九時間の生活はこの寮へ来た時と帰る時とでは学生の顔がすっかり変って、ニコニコして満足そうに手を振って去って行ったのを思い出した。これは学生数の多くなった現在も引き継がれ行われている。参考までに記述すると本年（平成六年）は次のように実施された。一年次生宿泊クラスミーティングと題して、英文科はホテルコスモ、国文科は箱根芦ノ湖園、家政科は箱根きのくにや、幼児教育科は油壺観潮荘、経営情報科は箱根小湧園となっており、学生にとってはよき思い出の一頁となり、親しき友も得られたことだろう。

さて、この頃（三十二年）の短大は母の日や花の日などの特別行事を行っていた。この年の母の日礼拝及び講演会は五月十五日(水)第三、四時限を使って行った。当時は小人数の学生だったのでキリスト教研究所の講堂で間に合った。講師は拠真女学校教諭の日野綾

子先生だった。思い出すがあの頃は、機会ある毎にこのような家庭的集いが多く計画されて、四年制の大学とは異なった教育が行われ、それがまた特色ともなっていた。

この年の大学祭は六月一日(土)から三日(月)にかけて行われていた。その準備のため五月三十一日(金)の夜間の授業と後片付けのため六月四日(火)は昼夜休講となっていた。計画は学友会並びに各クラブの自主性に任せられ、次のように報告があったと記されていた。文芸部が講演会を、生活科学部が繊維物の展示会と幻燈会、音楽部はグリーを考え、華道愛好会は作品展示会を、そして学友会本部はフォークダンスを計画していた。

夏の休暇に入る前に行っていた恒例の校内合唱コンクールは七月三日(水)に行う予定だったが、この年は参加クラスの不揃いのため已むを得ず中止となった。この時は丁度安藤寿々代助教授が音楽研究のため七月二日(火)羽田発の飛行機で渡米された。約九ヵ月間オハイオ州コロムバスのキャピタル・ユニヴァースィティに滞在して研究を続けるとのことだ。

毎年夏の休暇中に色々の行事が行われているが、此の年も恒例となった英語の夏期講習会が開かれ次のような配当で実施されていた。先づ昼の部は七月八日(月)から二十六日(金)まで、二つのコースで行う、その一は会話・作文科として午前九時から十時二十五分まで、光畑愛太教授と永野敏子講師の両先生が担当。続いてその二は英文学科として午前十時三十五分から正午まで、相川髙秋教授と柳生直行教授の両先生が担当した。(毎回同じようなことを記述しているようだが、記録しておくための資料として辛抱願いたい。)さて、次に夜の部は七月十五日(月)から八月二日(金)まで、夜も二つに分けて行い、その一は英文学科として午後五時四十分から七時まで、相川髙秋教授と小滝歪子教授の両先生が担当。続いてその二は、文法・作文科として午後七時十分から八時三十分まで、光畑愛太教授と小玉晃一講師の両先生が担当した。昼の部は夏の暑い中を毎日学生がよく頑張っていたし、夜は涼しいとは云い難く、昼間会社等で活躍しての帰りのため疲れも重なり、その上、平潟湾(海)へ流れ込む下水溝があるので蚊の発生も多く、教場に蚊取線香を配ったり、当時の学生はよく頑張って勉強していたのには感心したものだ。

七月四日(木)から六日(土)にかけて英文、家政両科の一年次生のリトリートが伊豆の天城山荘で行われていた。主題は「人間とは何か」講演者には柳生直行先生が当られた。(短大三十年記念誌より)

昼間仕事を持って通学する第二部の学生のリトリートは八月三日(土)四日(日)一泊して荒崎海岸(横須賀市)の荒崎寮で行われた。昼間部と同じ「人間とは何か」と題して柳生直行先生が担当したことが記されている。

当時は学年暦も現在とは異なり九月末で前期が終了し、後期の授業開始は十月十七日(木)からとなっていた。この期間中に英文、家政両科の二年次生のリトリートが伊豆の嵯峨沢館に於いて実施された。このような折は、いつも相川髙秋先生が関東学院に関わる〝過去と将来〟または〝学院小史〟として講演され、その中で関東学院建学の精神や校訓を述べられていたが、今回は兵藤正之助先生が初めて関東学院物語りとして講演された。学院長坂田祐先生の生い立ちから始まって青年時代、軍人生活を経て人と成りの歩み、今日ある関東学院の歴史を細かく語っておられたのが印象に残っている。嵯峨沢館に於ける諸行事は前の号(香葉二十一号参照)に詳しく記述

してあるので、この号では省略して先に進むこととする。

十一月に入ってから学院内の宗教関係の月刊ニュースを掲載する「告知板」が発刊される運びになった。今でも続けられ第二三六号が五月に発行されている。この折は短大からも英文・家政各一名づつ編集委員が決定して活動していた。そして十一月二十五日(月)には感謝祭礼拝がキリスト教研究所講堂でミセス・ジョンソン先生を講師として行われていた。

いよいよ十二月も押し詰った二十六日(木)から例年行っているスキー実習が有志により実施された。場所はこの年も妙高高原スキー場で門根静子先生(本学体育の旧教師)の指導の下に、先生の関係もあって捜真女学校の有志も加わり三十一日(火)の朝横浜に帰る計画で行われていた。

そうして新しい年、昭和三十三年を迎える。一月には恒例の学院創立記念日が訪れるのであるが、この年は六浦校地が当番に当り、各校の事務系代表が集まりその準備を話し合い計画したものだ。そして二十七日(月)に式典が挙行された。午前九時三十分から全学院の教職員祈禱会がキリスト教研究所講堂で行い、創立三十九周年の記念式典が午前十時三十分から大講堂で行われた。短大の学生も代表二十五名程出席したと記されていた。式典の終了後は燦葉ホール(当時は大講堂と棟を同じくして隣接した大きな多目的ホール)に於いて全学院教職員の懇親会が開かれ、茶菓、軽食を共にしながら歓談のひとときをもったものである。その外、創立記念講演会が横浜、横須賀、逗子と本学院の四箇所で開催された。短大では二十九日(水)午後三時からキリスト教研究所の講堂で相川高秋先生の記念講演があった。演題は「『氷壁』について」であったと記録されていた。

二月に入って早々、教職員の待遇改善を計るための教職員組合が結成され、柳生直行先生が委員長に就任した。

毎年同じような行事が繰り返されて歴史が出来上がってゆくのだが、それに携わる先生方の名前が記述されることによって当時活躍していた姿が、建物が、海が、というようにエスカレートして懐かしく感ずる会員もおられるので、同じような事を敢えて記しておきたいと思う。

三月に入って十三日(木)には昼間部の卒業式が行われ、その役割が発表になっていた。司式が柳生直行先生、免状係としては桧垣好子先生、卒業者の氏名を式場で呼び上げるのは各学科主任の先生、会場係は兵藤正之助先生、そして受付案内の責任者として柴三九男先生、式の終了後お茶の会を設けその接待係兼責任者は井口安喜子先生であった。卒業晩餐会は大河原巻之先生がその責任者となった。夜間部は十四日(金)に卒業式が行われ、司式は光畑愛太先生が担当し、卒業生の氏名を呼び上げるのは小玉晃一先生であった。

この年の三月末をもって三人の先生方が短大を離れることになった。光畑愛太先生は三月三十一日付をもって退職し、四月からは四国キリスト教学園に教授として就任することになった。また、柳生直行先生と小滝奎子先生は短大の専任を解かれ、四年制大学(学部)の専任に転籍された。当時は経営状態が非常に苦しい時代であったことがよく判る。一日も早く短大の校舎(自分達の城)を設け女子学生の勉学できる雰囲気を作りたいと常々教職員が願っていたことは事実だった。

米国へ留学していた安藤寿々代先生が帰国されて四月からは学生

主事に就任することになった。その折「米国の女子大では、ディーンウィメンと云って大変重要な役割を担っているのが、この学生主事です、云々…」と相川高秋学長が説明していたのを思い出した。

新しい年度を迎え例年の如く各科各学年の主任が発表され、昼間部の英文科一年に永野敏子講師、同じく二年は兵藤正之助助教授、家政科一年は桧垣好子助教授、同二年には大河原拳之助教授、そして夜間部の英文科第二部の一年は柴三九男教授、二年には小玉晃一講師が任命されていた。

五月七日(水)から九日(金)にかけて全学一、二年合同リトリートが中伊豆の天城山荘に於いて開催された。今回は嵯峨沢形式によるものとして、一、二年の交りの場でもあり、学友会各クラブの紹介なども含め懇親の会をもつことができた。この時のテーマは「学生と今日」と題してであった。(短大三十年記念誌より)

この頃としては珍しくパイプオルガンがキリスト教研究所講堂に設置され、その奉献式が五月二十一日(水)の午後三時から行われて短大の教職員も出席し、当日の演奏を拝聴したのを思い出した。

いよいよ此の年もまた大学祭の期間を迎える時期が到来した。日程については四年制の大学と同じで、五月三十日(金)の夜から準備にかかり始め、六月三日(火)の夜の授業は実施する予定で決定した。短大が主催する主な行事は、生活科学部が食物に関する展示会、華道愛好会がお花の作品展示会を、学友会本部としてはスクェアダンスの会を計画し、その外、クラス対抗ソフトボール大会や卓球大会をも考え教職員も参加して祭りを一層盛り上げる方針で計画実行した。その上「アメリカの文学」と題して講演会も企画されていた。そして、後日、今回の短大祭(大学祭)は総べて成功裡に終了することが出来た。と記されていたのが目に入る。

さてさて、例年のような長い夏の休みを迎えるのであるが、昨年中止となった校内合唱コンクールが七月三日(木)の午後行われた。夏休み前の授業も昼間部は四日(金)までとし、夜間部は五日(土)で終了した。夏期講習会は例年の如く実施されたが細目については各科に一任ということで行われた。この年は北海道旅行も七月五日(土)から実施され、大河原拳之先生と家政科の卒業生で同科の助手横山よし子氏が付き添いとして出張した。

英文科第二部の自治会主催による修養会(リトリート)が八月九日(土)から十日(日)にかけて葉山のレーシー館で行われていた。「生きるとは」と題して兵藤正之助先生が講話を行った。

この頃は、文部省の専科大学案について検討する機会が多くなり、秋に入ってからは一層この問題についての情報収集を行って、キリスト教主義短大の将来等に関し、関連校学長校長会議などでも重要議題として取り上げられていた。この専科大学案とは高等学校三年と短期大学二年を加えた五年制の一貫した専門教育を行う機関として考えられたが、大学の枠から外されて、一段低い教育機関となるのでは困る。当時は学校教育法の中で大学の枠内にありながら「当分の間」修業年限を二年または三年のものを短期大学と称する。と規定されていたので、この「当分の間」を削除して恒久化してもらいたいと常々願っていた矢先のことでもあって、日本私立短期大学協会を中心に全国の短大は総べて反対した。この専科大学案は私立短大協会側の反対が強く実現をみなかったが、数年後文部省は専科大学案を諦めて、中学校卒業後直ちに入学出来る五年制高等専門学校を設置することになった。そして昭和三十七年に発足したと記録

されてあった。このように筆を走らせていると、勿論前記の制度とは違うが頭に浮かんできたのが、昭和二十三年から二十七年頃のことだ。女子の高等学校が存在した三春台校地での生活、女子高の英語科を卒業してから女専なり短大なりの英文科へ進学した者、その者が卒業して社会に出てから、その実力のあることが認められ会社側は勿論のこと本人も非常に悦んでいたことなど思い出した。この頃は学院内に共学の高等学校が二校存在しているので、特に職業教育課程を有する女子の高校を置く必要がないとの事由で残念ながら昭和二十七年三月廃校となった。

この年の秋の催し物「シェークスピアの夕べ」は十一月二十七日(木)に県立音楽堂にて開催され、その時の演し物は「真夏の夜の夢」だった。そのための合宿練習が十月十一日(土)十二日(日)に亘り行われることになったが短大側は安藤学生主事にも参加してもらうことにした。

十一月といえば毎年、宗教強調月間として特別宗教講演なども多く計画されていたのを思い出されたことだろう。当時は宣教師のジェニングス先生が宗教委員会で種々計画されて大学と短大合同の講演会や短大独自の計画により講師を選択して実施したものなどがあった。記録ではこの折はフェリス女学院院長の山永武雄先生に特別講演を依頼した。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

(P5から続く)

「とおーかんや、とおーかんな!とおーかんやのわら鉄砲!」と、はやし立てながら、子供達がわら鉄砲を作って畑道や夜の地面をたたいて歩きます。わら鉄砲の芯は芋がらを入れ、わらで包み縄でぐるぐる巻いて作ります。芋がらを入れると良い音になります。この日を目標に麦まきが終る様に励んでいるが、蒔き残りもあり、忙しい時期の励みにもなりました。新米でぼたもちを作ったりもします。(十七)お彼岸。九月二十三日(秋分の日を中心に七日間)、先祖の墓参りをします。春のお彼岸と同じ様で、ぼたもち、だんごは同じこの他、仏の事に対して、あんびん餅や、一升餅も作ります。(十八)秋のお日待ち。十月十五日、秋祭り、春と同じ様、赤飯や塩あんびん、大福を作ります。

冬。(十九)冬至。十二月下旬、一年の中で昼が最も短く、夜が最も長い日です。神社や寺で星まつりが行われ、ゆず湯に入り、南瓜料理やこんにゃく料理を食べる等、寒さに向い体の調子を整える為に食事の内容が工夫されています。又此の日ゆずを切って酢漬けにし、節分に食べます。(二十)晦日払い。十二月三十一日、夕食には年越そばを食べる家や、白米の御飯にけんちん汁の家もあります。(二十一)お正月。一月一～七日、陽暦が月遅れの為、二月が正月でした。新しいしめ飾りを玄関に飾り、元旦の朝、年男が初水を汲み、鏡餅と雑煮を神々(十ヶ所位)に供えます。女性は三ヶ日は炊事をしないで、其為に重箱に正月料理を整えたものです。(二十二)七草がゆ。一月七日、神棚にあげられた供物「御飯や里いも」をおかゆにし食します。其他なずな等七種類の野菜を使います。(二十三)鏡開き。一月十一日、しるこ。(二十四)やぶ入り。一月十六日、雇人と嫁の休養の日。赤飯。(二十五)節分(としとり)。二月三日、玄関に鬼を寄せない様、ヒイラギとイワシの頭をさしておく。(初午)二月上旬、稲荷神社、つとっこを作って赤飯とすみつかれを包む。等。

(女専英文3回)

英文科の近況

徳永　透

去る三月英文科生二一七名が卒業しました。一六五名の就職希望者の九〇パーセントが決定、関東学院大学文学部へ七名が編入学しました。米国の姉妹校カンザス州のオタワ大学三年次へ四名が留学、本学専攻科への進学者は十名でした。卒業生の進路から見て、「多様性に富む英文科」と言えるでしょうか。

英語教育の一環としての海外研修も今年第九回を迎えます。カナダのブリティシュ・コロンビア大学で八月の三週間実践的な英語を学び、一般家庭で異文化を生活体験する研修は人気ある行事です。

平成六年度から六名の推薦枠となったオタワ大学留学制度も定着し、選考基準はトーフル五〇〇点以上となっています。また英文科生のかなりの学生が英検二級を学力の達成基準として習得し、過去二年間本学は優良団体賞を授与されました。

平成四年度から英語専攻の専攻科は、定員十五名で全国でも数少ない学位授与機構認定の専攻科となり、学位取得への道が開かれました。具体的には、短大卒業単位（六二単位以上）に専攻科で取得単位（二八～三八単位）を加算し、四年制大学で専門科目（十六単位以上）履習し、合計単位数が四年制大学卒業規定単位（一二四単位以上）に相当する単位を取得後論文と合わせて学位授与機構に申請、学位取得が可能となる新しい制度です。（本年家政科にも設置）

現在三名の専攻科修了生が学位取得を目指し関東学院大学の科目等履修生として頑張っています。今年度の専攻科生十三名中、三名は本学以外の短大英文科の卒業生です。

卒業生の皆さん、生涯学習の拠点、充電の場に専攻科を活用してみませんか。

さて、十月末の頃催される短大祭期間中は、在学生、受験生、卒業生（香葉会員）の皆さんがキャンパスに彩りを添え、現在を中心に過去・未来の学生たちの交流も活発に、それぞれ恒例化した多彩なプログラムが予定されています。

香葉会の皆さん、母校のキャンパスへ気軽に足を運んで下さい。

（英文科教授・英文科長）

家政科の近況

和田淑子

短大に家政科が設置されてから本年で四四年目を迎えることになります。この間に家政科を卒業された香葉会の会員は七、〇二二名に達し、大きなパワーを感じております。

現在の家政科は家政専攻、生活文化専攻、食物栄養専攻の三つの専攻に分かれて、それぞれ特色あるカリキュラムのもとで授業が進められており、皆さんの後輩も元気に学んでいます。ご存知のように、わが国も十八歳人口の急減を契機として大学の冬の時代を迎えることになり、多くの大学では二十一世紀の教育のあり方を模索して種々の試みや改革がなされています。本学でも教育の充実の一環として、本年度四月から新たに専攻科『食物栄養専攻』を開設しました。この専攻科では短大での二年間の基礎の上に、さらに栄養・

食品・調理科学など食物栄養に関する高度な専門知識を学び、時代のニーズ対応する食品研究開発能力を養います。また、食生活指導者としての栄養士の資質の向上を図り、地域社会に貢献する人材の育成をめざしています。超高齢化社会の到来に備え、社会環境も大きく変化していますが、健康管理の中核となる『食』の重要性はますます増加してくるといえましょう。こうした中で、食生活に関して新たな角度から意欲的に取り組んでいきたいと考えています。現在、七名の学生が専攻科第一期生として学んでいますが、少人数制授業によるふれあいの中で、一人一人の学生が力を発揮できるようにカリキュラムが組まれ、きめ細かい教育がなされています。本学の専攻科は英文科と同じように全国でも数少ない学位授与機構の認定を受けた専攻科であり、ここで修得した単位を加えて、一定の単位を修得することで学士への道も開かれております。短期大学からの進学者はもとより、卒業後実社会に出られた方にとっても、再研修の場として大いに活用されることを期待しております。

（家政科教授・家政科長）

ご注意!?

最近短大名を名乗っての問合せの電話が多発しています。短大及び同窓会では現在、そのようなことはしておりませんので充分ご注意ください。

◎賛助金及び名簿購入代金のお払込みについて◎

一、昭和五十年度から、香葉会の財政事情により、会誌代を含め賛助金を仰ぐことになりましたので、振替用紙にてご送金下さるようお願いいたします。

（一口千円、なんロでも……）

二、名簿一冊　三千円

三、振替でご送金の場合は、本会から別に領収書を発行しませんので郵便局よりの領収書は後日のため保管しておいて下さい。

◎身分、住所等異動の場合は◎

転任、転居、改姓名その他異動を生じた場合は、ご面倒でもその都度ハガキまたは電話でご通知下さい。なお卒業年、科、郵便番号、電話番号をお忘れなくお書き添え下さい。

卒業生新名簿完成（1994年度版）

一冊 3,000円（送料込）

現代のコンピューター技術を駆使して読みやすくそしてより正確な最新情報をインプットした新名簿ができました。お手元に是非一冊どうぞ。

同封の振込用紙でお申し込み下さい。

留学生活の思い出

徐　維玲

短大の二年間は夢のように過ぎようとしている。今、この二年間をふり返ってみると、うれしいこと、つらいことなどが走馬燈の絵のように頭に浮かぶ。そして、短大二年間を通じて、結局自分は何を得ただろうと反省するのである。これが私が短大にやったことだ、と誇らしく他人にいえることもない。しかし、今考えてよかったと思うのは、二年間短大生活は本当いろんな勉強になりました。

私はいつもこの学校に入ってよかったと思いました。優しいな先生達、楽しい友達と逢り合って、いろんな事を教えてくれて、二年間短大生活を楽しく過ごしました。

しかしなによりも自慢したいのは、この学校の正しい規律、すばらしいキャンパスのことです。

今、私は留学生活を終え、第二のラウンドに立とうとしている。社会人の生活は留学生活より、はるかにきびしいものと思うが、私は短大生活を通じて身につけることのできた、ファイトを宝に、今後の新しい生活を生きてゆきたいと考えているのである。

（英43）

短大の生活

楊　淑芳

私は日本に来て勉強することのきっかけは高校の時、広告設計を勉強しました。その時いろいろな日本の訳本を使ったので、日本のいろいろなことに興味を持つようになりました。また、デザーイン関係のものがもっと専門的に勉強したいし、日本語も勉強したいし、国外の生活も体験したいです。いろいろなきっかけで、日本へ来て勉強することになりました。

時間は一年一年と過ぎていった。私は日本に来てもう四年になりました。この四年間で短大の生活は、私の人生にとって、重要な勉強になりました。一生に忘れない思い出になりました。最初は、願書をもらうために学校へ行った時、学校の周辺の環境とキャンパスで学生達の姿を見て、とてもいい印象を受けました。短大に入って、先生方が立派でとても親切に教えてくださっています。生活文化の中で、インテリアとか住居学とか色彩学などいろいろな専門知識を勉強しました。よかったと思います。また、短大で、勉強だけじゃなくて、いろいろな人と出逢い、友達になって、日本の文化や生活習慣なども勉強しました。これは本当に自分の国では勉強できない事だと思います。

だから、短大の生活は私にとって、希望に輝く生活をしています。一年中、いろいろな活動がありまして、体育祭とか短大祭などは私の学生生活に対して、沢山の思い出になりました。これが私は最後の学生生活かもしれない、いい友達が沢山に作りましたし、いい思い出も人生の一頁に記録しましたし、専門知識もいっぱい勉強したし、本当によかったと思います。この短大二年間の生活は、私の一生にとって重要な勉強になりました。楽しかった。

（家政43）

呉　善花先生講演会

―「新たな国際化に向けて」を聴き終えて―

要約　渡辺亮子（国9）

「国際化」という事で、我が国を〝最も近く遠い国〟と位置付け、身近な生活から政治、経済にまで話を進め、根本的な事を知らなすぎた今、改めて外国人が多い中、しっかり変化を捉え、見つめ直し、考えることの必要性を教えられました。

日本人の反韓感情、韓国人の反日感情は過去の政治レベルのものから、この十年で個人的なつき合いも増え、少しずつ変化しています。これらを私なりに理解できるものは理解し、直せるものは直して分かり合えたらと本にまとめました。つまり韓国は政治レベルで民主化されていても、個人はまだ何が民主化なのかさえ解っていません。表だけの韓国を見て、錯覚しまた解らなくなってしまうという状態なのです。では一つ一つお話していきたいと思います。

〝錯覚〟という事では、中国文化圏で顔が全く同じです。私は五年前なら道を歩いている韓国人は一〇〇パーセント解りましたが、最近の若者は全然解らないのです。韓国人が日本的になったのか、とても不思議なことで、これは日本が先に近代の顔になり今韓国も近代の顔に変りつつあるのだと解釈しました。また、環境にも言える事で、ソウルの街並は看板さえなければ、日本の地方都市のようです。錯覚は小さな生活レベルの違いから大きな壁を作ってしまったのではないでしょうか。その中から、〝言葉〟では、韓国も以前は漢字を使い、一時期使わない時もあり、この為年代で格差が生じ、今の若い学生が日本語を勉強する時、全部音読みできたり、意味も解るので他の外国人に比べ、頭が良いと錯覚し、怠慢になり、本格的な日本語になると難しく大変になります。そして〝敬語の使い方〟も日本と韓国は全く逆で、日本の相手を立てて身内を低くするのは、韓国では相手より身内を立てます。電話の対応は、「うちのお父様におかれましては今、いらっしゃいません。」となり日本人にすればすごく気分が悪いかと、思います。知り合いの日本の女性が韓国の会社に勤め、敬語を使いそれなりに敬っていたつもりが、全て逆でとても失礼な事をしたと笑えない事実もあります。逆に韓国人が日本で電話を使えば、やはり、礼儀のない応対だと思われてしまいます。そしてこの個人が、〝日本人は〟となり、日本に対しての偏見になってしまうのです。――「韓国語には濁音がなく母音が多く子音は少ない。」など一応解っていれば少しは理解できるのではないでしょうか…。又韓国語には受け身の発想はありません。常に責任は相手にあるようになってますし、そうしようとする気持ちがとても強いのです。日本では逆に、〝私の責任〟という言い回しがあったり、受身的な言葉が多いと思います。

次に異文化の為、嫌な気分になってしまうものをあげてみます。〝食べ物〟は、主食はご飯で炊き方も同じです。味噌汁は韓国人も大好きで、ご飯と味噌汁が同じという事でより近くに感じ、安心感をもってしまいます。でも食べ方を見ますと、互いに、してはいけない事をしなければならないようで、これが嫌悪感になります。茶碗をもって食べる、スプーンでなく箸を使う、取り皿にとる等、全て

様式が違います。日本の〝お茶漬け〟は韓国人にはとても気持ちが悪いものです。—異文化と思う以前に嫌悪感を生じてしまうのです—

〝座り方〟女性の座り方ですが、韓国の正式なものは、チマチョゴリを着て右の膝を立て肘を膝の上に乗せます。日本でミニスカートをはいてついこの座り方をしますと「それだけは止めてくれ」といわれます。又食事の後、お茶やお水で口を洗いそのまま飲むのですが、〝汚いじゃないか〟と、これらは価値観の違ういい例です。〝座る〟ということでは、日本の正座は囚人の座り方で、韓国人にはとても卑屈に見えます。韓国人は根本的にいかに自分を強く見せるか。低く見られないよう常に努力し、それが日本人には高慢に写り、付き合いづらい原因になります。逆に韓国人には日本人はべこべこし過ぎて弱々しく見えます。その為一般的に日本人は団体なら強いが個人は弱く、公的集団には個人攻撃をした方がいいと言われます。つまり日本人的腰の低さは韓国では通用しないのです。実際に——そして目に見える所はある程度直せますが、問題は見えない所にあるようです。それは〝勘違い〟などで、日本人の腰を低くするやり方は旨くできればある程度、逆に勝つという考え方ですが、韓国人には、どうしてもそれが、理解できないようです。又「お願いします」と言う言葉も日本人は何回も使いますが、韓国人は二度とは使いません。卑屈に感じてしまうのです。ビジネスではこの態度で誤解を受けたり、錯覚したり、立場の違いで左右するようですが……——一般的な韓国人の考え方は〝下に立ちたくない〟という気持ちが強く、何かをしてもらうにしても、「あなたの方が助けてくれるべきではないか。」となってしまいます。

もう一つ日韓で解りにくい、人間関係があります。特に友人関係を作ろうとする時、韓国人は自分の悩みを先に全て言い、それを相手に聞いてもらいお互いに悩む。内面的な事をわかち合ってこそ友達になれるという考えで、これに対し日本人は「なんで韓国人は自分の悩みや苦しみを話すのかわからない。そんな話は聞きたくはない。」となり、韓国人はものすごく密着した関係を持ちたいのに、日本人は淡い関係で長続きさせたいと思う。これに韓国人は淋しさを感じノイローゼにまで陥ってしまうのです。多くの韓国人が体験することです。又日韓で合弁会社を作る時など、〝義兄弟〟という強烈な関係をもち、〝あなたは私を裏切らない〟——と判を押す儀式を行うことがあり、この関係を今度は国際関係にも当てはめようとしたり、まだまだ国際化されていません。

神に対する考え方でも、日本は幅が広く韓国は一元的です。つまり表の多様化された部分だけでなく、その中で一元的に見ないと、韓国を見ることはできません。アメリカで韓国新聞を読み、〝盆栽〟について「盆栽は日本が最初ではなく韓国が〝最初だ〟と知らせなくてはいけない。」など、非常に韓国らしいと思いました。

これからの国際化は、欧米中心が崩れ不安はありますが、アジアに戻るべきでないかと、ただ戻るのではなくもう一度見つめ直して——その中の鍵は日本にあります。日本に未来性のある国際化が含まれていると思います。そして韓国は非常に大きな〝合せ鏡〟として、日本的なボーダレスな社会になった時、必要とされるのではないでしょうか、又その事がこれからの大きな課題だと思われます。——要約を終え、質疑応答等を聞き、〝韓国〟への深い感心から、アジア圏で日本は本当に〝発信源〟と言えるかどうか、これを機に再考できればと思いました。

こんにちは、先輩！

今年から、新シリーズ開始。香葉会では現在、会員数二万一千余名になる会員の皆様がさまざまな職場、家庭で頑張っていらっしゃると思います。その中から、毎年、何人かの卒業生をお訪ねして、お話を伺おうと思います。第一回目として、香葉会でお世話になっているレストラン「相生」の副社長飯吉玲子さん（女専2回）と、卒業記念品のハンドバッグホルダーの製作をして下さる「大恵」社長の大野恵一さん（英II 12回）のお二人を訪問しました。

飯吉玲子さん

平潟湾に夕闇がせまるころ私達編集委員（古城、葛城、吉屋）は金沢八景駅前の真鶴会館3Fのロビーで飯吉副社長にお目にかかることができました。もの腰のやわらかさ、おもわず引き込まれてしまうようなお話上手、又経営者としてのビリッとした厳しさも感じられ、さすが第一線でご活躍の女性と感激しました。

『終戦後二年目女専に入学、英文科、家政科の一クラスずつで年齢差も高低があるユニークな同期生で体育の授業を抜け出して映画をクラス皆んなで見に行ったり、タッピング先生に叱られてもこりず、遊びながら勉学に勤んでいました。父は私と同時代に学校の後援会長をして学校への尊敬・信頼・奉仕・協力を何十年も続けました。

「相生」は、昭和六年創立、最初は新子安駅のそばに店を造り、貰い火により全焼してしまい、店を尾上町に移しましたが戦火により保土ケ谷駅前に移りました。その後縁あって関内の弁天通りにあった日動火災ビル1Fで洋食屋「真鶴」を始めました。さらに相生町に自社ビルを建て町名から「相生」と言う名称をもらったのが現在の「相生」です。

「相生金沢八景店」は昭和二十三年頃に、現在の場所にあった普通の家をそのまま利用して食堂としてスタートしました。その当時の八景は、駅を降りるとすぐに海岸で、柳町あたりなどはまだ海でした。』御自身は、学校を卒業して父親の元で一緒に「相生」を築いてこられました。現在は、息子さん（関東学院を小学校から大学卒業）が本店、御自身は八景店を親子・従兄弟（妹さんの御主人と義弟）で経営していらっしゃいます。御主人と娘さんは、医師として社会に貢献され、そ

の家族を妹さんがお世話しながらお互いに助け合い協力しあっています。『仕事は女性が中心になってまとめていくとうまくいき、良い女性の方が多く集まればお店も伸びていくし、女性の方を大切にすることが大事です。又新しい方には「熱意・辛抱・この仕事が好き」と言うことをお願いしています。仕事が好きと言うことが一番大事です。人間関係も、叱ったらほめる、信頼しながらもけじめをしっかりとする事でよりよい関係を保っている』とのことでした。

仕事がら女性の多い職場で色々ご苦労もおありかと思いますが人間関係は「愛情と鞭と信頼」と言いきる飯吉副社長の益々のご活躍とお仕事のご発展を心よりお祈りします。

毎月第三の木曜日が定休日、お客様の声を大切に耳を傾け、できることは改善して下さるとのこと、クラス会・同期会・会議・結婚式・弔事等に利用できます。十月の短大祭のお帰りにクラス会、グループ会などを企画し、卒業生の交流の場として利用なさってはいかがでしょうか。

大野恵一さん

山下公園のシルクセンターに大野社長をお訪ねし、お話上手な、魅力的なお人柄にひかれて、ついつい長居をしてしまいました。

『英語の勉強のために、夜間、店を任せて学校に通っている時、授業の前に食事をしていると、よく小玉先生に「お食事の方が先なの」と言われた思い出があります。当時は大学の神学部の隣にあった古い校舎で授業を受けていたのです。クラスは、男女あわせて二十名ぐらいでした。シルクセンターが、昭和三十三年に設立された時から店を構えています。元町のユニオンの前が実家で、幼い頃から元町で育ち、戦後すぐに元町に店を出しました。シルクセンター店は営業所という形を取っていました。昔の元町は、横浜に住む外国人の方たちの生活の為の食料品、家具等を中心に店舗ができていました。その当時は私の店も外国人客が主で、銀製品・七宝などを扱っていました。母方の実家が洋食器の輸出（フランス向け）の商売をしていたのをきっかけにシルクセンターに店を構えてから、宝飾・七宝製品に加えて陶器を扱い、洋食器関係を増やしました。母方の絵師の関連から薩摩焼の職人をそのまま受け継いで、洋食器の製作販売に携わってきました。当店特製の裏印の入った揃物は、破損があった場合、いつでも補充ができますので、安心して使用して戴くことができました。当時は一ドルが三六〇円の時代でしたが、現在では、外国の方には同じ商品が三倍以上になってしまいました。七宝焼は昔から名古屋の在の海部郡（昔は七宝村と呼ばれていた）に半農半工のいろいろな職人がおりまして、古代模様を伝承している人とか、花鳥が得意、山水がうまい、など家によって特色があります。それを熟知していないと本当に良いもの、どの作品を店で扱いたいかという選択ができません。一口に七宝焼と云っても、無線七宝、有線七宝、透明釉七宝、省胎七宝、泥七宝（昔の物）、陶胎七宝、エマイユ七宝、等々

ありますが、特に省胎七宝は、銅の胎盤を酸によって腐蝕し溶かしてしまって、丁度ステンドグラスの様に透けて見えるものなど凝った作品もあります。七宝焼の作家は国内でも未だ数も少なく、和食器特に茶陶の作家数と比較すると段違いです。……』

大野さんは、ご自身でも陶器を焼かれて、大変難しい技法で木の葉を焼きこんですばらしい作品が店頭に並んでいます。

後継ぎと期待していたご子息は臨床医になられたので、少々寂しい思いもあり、世界に一点日本には数点という、沢山の個人的にコレクションした省胎七宝の作品の行方も気にかけておられるご様子でした。ご自分にとって店とは、趣味と実益を兼ねたもの、苦労とは思ったことは無く、とても楽しんでいる……というお言葉が実感される大変興味深い、専門的な面白いお話を長時間、貴重な時間を割いてくださって楽しく聞かせて下さいました。山下町方面にお出掛けの折りは、シルクセンター内の「大恵」に是非、足をのばして下さい。学院の在校生又は卒業生と云って下されば、勉強して下さるとのこと。今後の変わらぬお付き合いをお願いしておいとましました。

「第13回県央の集い」報告

英文5回　小林　麗

ミュンヘンオリンピックで日本チームに貴重な金メダルをもたらしたバレーボールチームの立て役者の一人、その華麗なドライブサーブ、一人時間差攻撃等の多彩なプレーで日本中をテレビに釘づけにしたあの森田淳悟氏を第13回「県央の集い」に講師としてお招き出来ました。頂点を極めた方のお話は謙虚で聞いている者皆心を洗われる思いが致しました。極限の練習、努力、工夫に裏打ちされた自信をもってしてもオリンピックには不思議な魔力があって平常心を失ってしまう。それを如何にして克服するか。それは監督を信頼し、チームメイトを信じ、己を信ずる、これこそが勝敗を決すると。

第14回「県央の集い」へのお誘い

燦葉会県央支部発足当時からのお誘いを受け、今まで13回の支部会に香葉会のメンバーをお迎えする事が出来ました。毎回ご出席下さる方には勿論、今回が初めてという方も必ずおられ、盛会とはいかずとも継続していく事の大切さを強く感じております。毎回趣向をこらし多くの方に楽しんで頂けるよう企画しております。皆様のお出かけをお待ちしております。

日　時　11月26日(土)　PM5：30より
場　所　厚木ロイヤルパークホテル
TEL　0462－21－0001
※ 連絡先　小林　麗まで　0467－77－0183（PM8：00以降）

香葉室

この欄は，卒業生の皆様の消息，感想文，等の発表の場として用意いたしました。今回も引き続き，昨年の講演会出欠通知から無断で転載させていただいておりますが，短大香葉会「香葉」編集局宛，次号への原稿などお送り頂ければ幸いです。

数年前転居して以来、住所をお知らせしておりませんでしたので、「香葉」もいつしか届かなくなり、学校の便りも聞かれなくなっておりました。その間に芭蕉を教えていただいた、山下登喜子先生が亡くなり、担任だった千葉先生が逝かれ、卒業前地鎮祭をしていた図書館が建ち、中庭はチャペルができたと聞きました。キリスト教概論を教えていただいた下田先生が学長になられ、この度は退任という事を知るにつれ、経った年月を感じずにはおられません。その中で岡松先生のお名前を拝見させていただくと、ホッと致しました。

今回同じ職場に同窓の方がおられ、数年振りに「香葉」を拝見させて頂き当時自分が入っていた漫画研究部が、カットを描いていたりして、とても嬉しくなりました。金沢八景も随分変わったことと思います。けれども、やはり目に浮かぶのは、自分達の通っていた頃の景色…永遠に変わらない大切な想い出です。

（国文16　七宮明美）

両親と七人家族で暮らしています。今年の夏は、ウワサの八景島に子供達と出かけました。海には縁のないところに住んでおりますので、潮の香りがとてもなつかしかったです。目の前に広がる二十年ぶりの風景、夕暮れの中に卒業後生まれ変わった短大を見つけ、子供たちに見せてあげられたことを、今香葉を手に思い出しているところです。

（国文5　石井千恵子）

去年三十年余勤めましたオーストラリア大使館を定年退職致しました。この十月で一年になります。あれもしたい、これもしたいと在職中に思っていた事が気ままにできる身分となりはりきっています。その一方がんじがらめになって働かされた時期がなつかしく思われます。これから自分で自分を管理する事になりましたので満足のいく毎日を送りたいと思っています。

（英文1　高橋静子）

短大時代の友人とは今でも親しくしていただいて居ります。友を得た喜びは、学生生活の何よりの賜物です。父がすっかり弱くなり介護の毎日です。週一回デイサービスに行くのでその日が私の休日。以前やっていた〝お花〟をまた始めました。婦人部のサークルにも時々参加しています。家の中にこもりきり

にならないように努力をしています。夕方は父と散歩に出ます。近くの神社で父が祈ってくれたのは、私の健康とのことでした。昨年腎臓を悪くしたため、まだ調子があまり良くないのです。父の暖かい心に感謝して早く元気になりたいと思います。

（幼教5　猪熊周美）

五月会が発足した頃は、何回か出席していましたが、欠席し始めてからかなり御無沙汰申し上げております。横浜は楽しく過ごした学生時代から故郷のように思っております。でも今は静岡から余り出ることもなく少しこもりがちですので、六十才を越えた事に負けず若返りたいと思っております。

（英2　児玉三重子）

主人のフランス駐在を終え帰国してから、早一年が経ちました。日本の便利さを改めて感じると共に、短大時代第二外国語として（仕方なく）選んだフランス語がまさか人生においてこんなに役立つとは思いもしませんでした。

（英36　浅野明美）

エアロビクスインストラクターとなり、メンバーの方々からの食事に関する質問にも栄養士の資格を大いに活用すると共に、又常に勉強にはげんでいる毎日です。

（家政20　三田村有希子）

社会に出てまだ年月が浅いですが夢一杯だった短大時代が懐かしく思われます。幸せな時間の流れの中にいたなとつくづく…。

現在やっと夢の実現する会社へたどり着き頑張っています。そんな自分があるのも短大時代あってこそと思いながら「香葉」を手にとりました。

（国25　茂田井恵）

今年の夏休み八景島シーパラダイスへ行って来ました。金沢八景の駅は昔のままで、とてもなつかしかったのですが、駅前の景色がすっかり変ってしまってびっくり、短大もきっと変られたんでしょうね。今度一度行ってみたいと思っているのですが、なかなか行けません。

（英25　片桐和子）

毎年香葉を送って頂き誠にありがとうございます。楽しく読ませて頂いております。

滋賀県には卒業生が殆どいない様で淋しい限りです。関西支部ができたらありがたいですね。私は今、京都工芸繊維大学の三回生（三年生）です。今一度勉強がしたくて門をたたきました。専門は応用生物学です。若い学生にまじり青春を再びやっています。案外やれるものと思っています。夢を捨てないでずっといました。これからが私の人生なんてひとりごとを言いながら…。

（家政11　横江登喜子）

今年一月に夫が定年となり生活が少し変りました。失業保険、厚生年金、税金etc再認識させられています。幸い四月から再就職のスタートをしてくれて生活のリズムができホッとしました。私も十余年にわたってしていた実家の方の仕事（建設業）からも開放され、長年放置しておりました家事に専念して

いるところですとは申しますが…。コーラス（何時の間にか二十年になります）やテニス（最近始めましたと言いながら早や七年目のベテラン？）も楽しんでいます。

（英文3　桐原千恵）

入社して今年で十年目、会社にとって自分という存在が不要になってないだろうか？毎日自問自答して頑張って仕事をしています。新人の方に望むのは〝相手の立場に立ってモノを考える〟と〝タテとヨコのつながりを持って欲しい〟特にタテですかね。同期、同年齢とばかりつながって欲しくない、もっと広い視野を！

（国文17　小原弘美）

香葉をいつも楽しみにしております。あっ！という間に卒業して十五年が経過…ほんとうにあっ！という間…結婚して湘南に住みついて、三児の母…毎日があっという間です。息子も娘も現在キリスト教主義の幼稚園に通い小さな手をあわせてイエス様にお祈りの毎日、なんだか月日の流れの速さと共に深い縁を感じます。学生の時、下田先生にキリスト教概論をお教え頂き、今私の子供たちが…私もまた学生に戻りたい…こんなずうずうしいことを考えながら今日もたくさんの洗濯物の山の中にうもれています。

（幼教5　小室けい子）

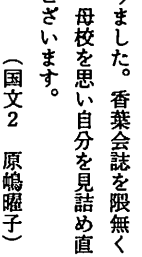
育児にあけくれる毎日です。昨年七月に娘を出産して一年、喜怒哀楽しながらも無事に誕生日を迎えました。実家が遠いので、主人と二人でとまどいながら育児をしてきましたが、この頃は少し余裕もでてきて、自分の時間もほしいな、と思っています。横浜に帰る時は、母に預けて、皆で遊びましょう。

（家政36　末永恵美子）

結婚して十年目を迎えるのに、ベビー誕生の気配もなく、メダカを飼ったり植物を育てたり…。パートで働きながら、ボランティア活動でも、と二団体三分野位手を出して年中ヒマなしの状態になってしまいました。

色々な障害を持つ人にも会うようになり、海外からは水を汲みに子供が往復10km歩く等という情報がはいってきます。月並みですが、失ってから健康のありがたみに気付く様では遅い、予防第一ですね。私もフトコロが寂しくなり、オカネのありがたみを身にしみて感じています。

（英29　関谷由利子）



結婚生活も明年に銀婚式となる状況でして子供も長男が大学三年、次男が大学一年、長女が中学一年となり、子育ての奮戦もようやく一段落となりました。香葉会誌を限無く拝見させて頂き、母校を思い自分を見詰め直すことしきりでございます。

（国文2　原嶋曜子）

「香葉」を読む様になってまだ三回目。学生時代が鮮明に思い出される昨今ですが「香葉」を発行される諸先輩方の御苦労は計り知れないものがありますでしょう。私は賛助金としての御支援しかできませんが、来年度も「香葉」の読める事を楽しみにしています。

（英文36　青木恵美）

一歳半になる息子と毎日のんびりと過ごしています。会社生活をしていた独身の頃と比べると他人との会話は少なく、緊張感もなく

退屈に思っていた時もありましたが、子供の歩幅にあわせてゆっくりと時間が流れるのも心地良いものだと最近思い始めました。人生八十年としたらそのうちのほんのわずかな時期のような気がします。しばらくはこのペースで歩いて行くことになりそうです。

（国文15　井上明美）

仕事の関係で燦葉設備会の会員になっている小生は、燦葉会関西支部の会員でもある為、同じ学校で三部会より色々と連絡をいただいております。大阪では、燦葉会関西支部が毎年総会を開いております。関西支部長は（高商11）の中川昇様。呉善花先生の本も読ませていただいております。

（短英Ⅱ9　羽田高義）

楽しい想い出いっぱいの短大からの〝お便り〟―香葉、嬉しく拝見しました。卒業して十年以上…現在も月一回アメリカ人の先生に家に来て頂いて細々とですが、英会話を続けています。せっかく二年間教わった英語を無駄にはしたくないと思いつつ…ただ五才と一才の子供を抱えていると、中々集中して勉強することはできませんが。これからも頑張って一生続けていきたいです。

（英文30　石渡朝子）

六月二十六日に行われました幼教のパーティに出席させていただきましたが、たいへん楽しい一時を過ごすことができ、満足至極で帰宅いたしました。九月二十九日には第二子を出産（男児）しました。二才になる長男もやんちゃに磨きがかかってきた今日この頃、ますます忙しくなりそうです。

（幼教9　小室卓重）

香葉会の会誌を送っていただきありがとうございました。先生方はますます御活躍していらっしゃるのかしら…同級生はのっているかしら…と楽しみに読ませていただいています。卒業してはや…。教えられなくなりましたが、先日母校の実習生を迎え、なつかしいひとときをすごしました。りっぱになった母校の様子を聞き嬉しく思いました。現在三人娘の母として、また保育者として引き続きがんばっています。いつか遊びにうかがいたいと思っています。

（幼教4　関口眞喜子）

毎年送られくる香葉を楽しく拝見させて戴いております。学院の近所に住んでおり前の道を車等で通るたび〝図書館の電気がついているな、室内では毎日が楽しくて仕方ない様な学生さん達がレポートしあげの勉強をしているのだろう。〟と気にはなるものの、自分自身が院内に足を踏み入れる機会がなく是非、今回の講演会には、出席したいと思っておりましたが、今回も出席する事が出来ず残念です。来年こそは!!それから、生活文化専攻に「二級建築士受験基礎資格」を得る事ができる様になったのは、私にとって、大変うらやましい事です。在学中から住居関係の仕事を希望し、現在三角スケールを手に働いておりますが、もう少し知識が足りず、頭の痛い毎日です。私が今、在学していたら絶対にこの資格を得ます。

（生活3　武藤静香）

結婚してもうすぐ一年。結婚前から続けていた仕事をまだ続けています。そのせいかいまだ〝結婚した〟という実感がわかなくて…。そろそろ子供も欲しいと思っていますが、この調子では今度は母親になった実感もわかないのでは…と余計な心配をしています。香葉

会事務局の皆様いつも大変なことと思いますが、どうぞ今後ともガンバッテ下さい。

（国文20　本田みどり）

平成五年四月より福岡に転居いたしました。福岡ドームの近くで、晴れた日には「海の中道から志賀島」が一望できる所です。活気に溢れた博多っ子の町で、又、新しい自分を発見したいなと思っています。香葉No.22で岡松先生の原稿とお写真、とても懐かしく拝見いたしました。委員の方のご苦労に感謝しております。

（国文1　沖野啓子）

結婚して十七年がすぎ十回を越える転勤の先々にも毎年秋を迎える頃、なつかしい母校の香葉会誌が届けられました。深く感謝を感じながら、大切にページを今年も開いております。北の大地はすでにストーブの火がともり、まもなく雪の便りも聞かれようとしております。なつかしい国文の岡松先生のお写真に月日の流れを感じております。先生の愛読者の一人となりました。

（英文24　松本　悦）

いつも香葉会誌をお送り下さいましてありがとうございます。なつかしく拝読致しております。昨年四月長女が同じ英文科に入学致し、入学式に親として出席させて頂き、感慨深いものがありました。今年はリトリートに子供が参加し、三十年前をなつかしく想い出しております。「光陰矢の如し」を身にしみて感じております。小玉先生始め、諸先生方御元気で御活躍の御様子陰ながら、ますますの御活躍と御健康お祈り致します。

（英文40　石田智子）

〈名誉教授柴三九男召天〉

柴三九男先生は、平成六年二月十八日午前二時五十分、八十七歳の天命を全うされました。謹んで哀悼の意を表します。

現住所は左記です。

東京都東久留米市学園町一―十三―十八

クラス会報告

英文科Ⅱ部三十三年卒　明石昌子

昨年の香葉の投稿メ切に間に合わず、ほとんど一年おくれの報告になってしまいましたが、きのうのことのように思い出すことのできる懐かしさにあふれた会合でした。

平成五年七月三日、梅雨の晴れ間で、緑が一層あざやかだった、上郷森の家を会場にしました。

出席者は、小玉先生（現学長先生の御夫君、写真前列左から三人目）をお迎えして、全部で十五名。

在学当時とちっとも変わられていない、お元気な小玉先生は、私達の入学と一緒に短大に来られたばかりで、当時のむずかしかったテキストのことなどに話の花が咲きました。

二、三年前に藤田さん宅で、第一回を開きましたが、三十五年ぶりの再会、という方も多く、しばらくすると学生時代にタイムスリップしていました。

私達は昼間働き、夜暗くなっている学校に集まった仲間で、時間こそ少なかったのですが、勉強だけでなく、スキーやハイキングと、一日を何倍にも使ったあの頃でした。

今でも現役で、仕事を続けられている方が多く、お逢いすると「元気の素」を戴けたような気がします。

次回は小玉先生が、お話をして下さるということでした。今回御都合のつかなかった方、次回には是非どうぞ、お出掛け下さいますように。

次回幹事を決めて、別れを惜しみながら山を下りました。

三十五年ぶりの再会

高橋　宏

春まだ浅く風も冷たい三月五日に、昭和三十四年三月（第七回）夜間英文科を卒業した私達六名がクラス会開催の準備のため中区関内の相生本館で集まりました。

卒業後初めての会合でしたので大変なつかしく旧交を温めた後一人一人が過ぎ去った三十五年の間の歩みを自己紹介しました。

皆さんの話をききながら感心したのは仲間が卒業後も更に勉学に励み、高校教師や大学教授になって現在も活躍している人がいることで大変感銘を受けました。

昔に返って楽しい雰囲気のうちに会は進み時間が経つのが惜しい程でした。

そこで今後は定期的に年に一～二回集まりたく、一人でも多くの方に出席して頂きたいので名簿を再編成したいと思います。香葉会事務局の御協力によりかなりの方々の住所が把握出来ましたが、まだ大多数の方が不明又は未確認です。

今年の秋たけなわの十月頃に第一回のクラス会を開きたいと思います。この記事を読まれた方で最近住所変更のあった方はぜひ香葉会事務局（渕上さん、七八七―七八五九）か又は幹事の小島（鎌倉市山の内七七八、電話〇四六七―四六―四三五四）又は高橋（横浜市中区本牧町二―四三〇、電話〇四五―六二一―七九〇三）まで連絡をいただければ幸です。一人でも多くの方の御協力をお願い致します。

家政科　第十二回生クラス会報告

桜が盛りの去る四月十五、十六日に私達昭和三十八年三月卒業、家政科のクラス会が湯河原「山翠樓」にて開催されました。卒業後すぐ第一回目のクラス会が持たれ、その後二十年以上開かれませんでした。ここ数年のうち三回開かれ、一泊でという御意見もありましたので今回少々の不安がありましたが実行しました。

出席者は十二名と少人数でしたが、素晴らしい天候に恵まれ、桜あり、温泉あり、それに少々のお酒ありと三拍子揃い楽しい一夜をすごしました。卒業後はじめて参加して下さった方もいられましたが皆すぐに学生時代の気持に戻り旧姓が飛び交いました。恩師の思い出や当時の学院の様子、又今だから話せるという学生時代の恋の話とか、夜の更けるのも忘れ、おしゃべりに夢中になりました。

翌日は二台の車に分乗して椿ラインを経て箱根湿生花園を見学しました。珍しい山野草に見とれ、きれいな酸素を胸いっぱい吸い、こころなしか気持が洗われたようでした。次回は鎌倉山で開催することを約束し、それぞれ楽しい思い出をつめて帰路につきました。

末筆になりましたが山翠樓さんに大変お心遣をしていただき有難うございました。

家12　大内早智子

五月会御報告

今年の五月会は小林さん（旧、内尾さん）のお計らいで三浦半島、観音崎に程近い割烹料亭「よう吉」が会場となりました。昭和六十一年の同会の折、かに料理の評判が良かったことで再度お世話になりました。今回は総勢十四名の集まり、潮の香もただようお座敷で磯料理に舌つづみをうちました。メインのかに料理に手作業も楽しく、互に話がはずみテーブルをはさんでなごやかなやりとりが続きました。

学舎を巣立ちましたのは昭和も二十八年でしたでしょうか、その年すら忘れる年になってしまいました。でも、皆さん少しも変りなく、四十余年もの空白を感じません。母校には大変御無沙汰してますがこの御縁、絆を大切にし、今後も末長く育まれることを願いたいものです。

今回ははるばるアメリカからお里帰りをかね、又、島根県の出雲から、そして古都奈良からと皆さんお疲れの様子もなく御参加下さいました。こうした中で次回の五月会は「出雲」でと決りました。出雲は神々のお国だそうでして何か神秘と、より楽しみを覚えます。

さて、「よう吉」をあとに車で近くにお住いの小林さんのお宅に、二次会ということで全員がお邪魔しました。早速、お庭の芝生でスナップ写真を、五月の日ざしもさわやかに思い出の場がもうひとつ増えました。お二階ではアイスクリーム、みつ豆、大福等々と甘いお席も一段と賑わいました。お部屋には手作りの手芸品が色々と飾られ目を楽しませてくれました。ほっとしたくつろぎが頂けました。そして出雲での再会をお約束し乍ら心地良い思いでお宅をあとにしました。

黄金町駅前の「きんこや」さんの話も出ました。現在もお店がそのままにあるそうでして、いつか訪ねてみたい、お茶をすすり乍らもう一度学生時代にかえって…と懐かしくほほえましく思いました。

なにか食べることのみの御報告になってしまいましたが御協力を頂きまして大変ありがとうございました。

（英2　小島八重子）

幼児教育科第十回卒業生同窓会

五月二十九日(日)、横浜国際ホテルに於いて卒業以来、初の同窓会を行いました。残念ながら間際に参加出来ない方が続出する等、当日は卒業生の四分の一弱という出席状況でしたが、中田先生、村上先生、近藤先生、犬木先生、安藤先生にご参加頂き楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

再会するなり「変わらないネ」という言葉が第一声に出る程、皆十年前と変わらぬ様相に、お互いビックリするやら懐かしく思うやら、随分と会話が弾んでいたようです。

イントロあてゲームでは、照れながらも渋い歌声を中田先生、近藤先生にきかせて頂きました。又、村上先生には、あのリトリートの天城の夜を再現するごとく「イヨマンテの夜」の歌を披露して頂き、絶頂の盛り上がりの中、会を終えることが出来ました。

尚、同窓会が今後も開催されていく様にと、各クラス幹事を決め、次回はB、その次はC、そしてDと持ちまわりで行う事にしました。

最後にお忙しい中ご参加頂きました先生方、そして各クラスの皆さん有難うございました。

（短幼教2A　櫛田　清美
榎本三枝子）

クラス会・グループ会・部活動会等の集まり・おたよりお待ちしています。

（編集部一同）

卒業生の皆様にご注意

短大名及び同窓会名を名乗って個人宛に電話で情報提供や寄付依頼をしてくる会社があります。

短大及び香葉会ではいっさいそのようなことはしておりませんのでお断り下さい。不審な場合は必ず香葉会事務局までご連絡下さい。

図書館から、香葉会員の皆様へ

奥村博之

現図書館は、一九八四年五月に開館しましたが、この新図書館の建設に当たっては、一九八一年から一年余にわたり、他大学の図書館を見学するなどして、慎重に検討が加えられました。マクロ的なスペースの問題だけではなく、明るく、柔らかな雰囲気を持たせるために書棚や、閲覧机、椅子等を白たも材に統一して特註する、案内標識には絵文字を使う等のミクロ的な工夫も凝らされました。

また、新館開館と同時に電算機による閲覧システムが稼働し、翌八五年雑誌システム、翌々八六年管理システムが完成、図書館運営の全システムがコンピュータ化されました。導入準備から数えると十余年前のことになりますから、四年制大学図書館でも電算機導入は少ない時代で、当時の館長を始め館員の方達の労苦は、私の想像を超えています。先輩諸氏のお陰で、閲覧者には迅速な検索、貸出・返却サービスを提供することが、館員には発注から受け入れまでの業務を円滑に進めることができるようになりました。

一九九三年度末の蔵書冊数は、英文科、国文科演習室排架分を加えると十万冊を超えました。もとより、図書館は蔵書冊数の多少で評価されるものではありませんが、文科系、社会科学系、自然科学系学科を擁する総合短期大学ならではの体裁を整えつつあると言えましょう。

当館では、基本的な専門書・参考図書中心の収書をしてきましたから、特別なコレクションや、これと言った特徴を挙げる事は難しいのですが、短期大学図書館としては、調査のための参考図書（辞典、事典、白書、統計書、図書目録など）が充実しているのではないかと自負しています。

また、館内視聴のみで館外貸し出しはしておりませんが、ＡＶ（視聴覚）資料の所蔵も増えました。特に、ＬＤ（レーザー・ディスク）盤外国劇映画のタイトル数は、ここ二、三年で著しく増加しました。いわゆる名画は、ほぼ所蔵していると言えましょう。

学校を出てから図書館を使う目的は、仕事に関わること、趣味など様々ですが、どの課題も学生時代より身近だと感じるのは、私が不真面目な学生だったせいでしょうか。

何れにせよ、生涯学習を言うまでもなく、自分のペースで、心いくまで、おまけに無料で使える図書館を大いに利用しようではありませんか。身近な公共図書館で、ベストセラーを借り出して読むだけでなく、調べものをするために母校の図書館を利用してみませんか。「卒業生が利用できるのですか。」というお問い合わせが時折ありますが、勿論開館時はいつでもご利用頂けます。

図書資料の閲覧だけでなく、調査のお手伝いをする相談もお受けしております。本だけではなく、図書館員もお使いください。

最後に、お願いを一言。当館では、横浜や周辺地域を題材とした、古絵はがきの収集を始めています。お心当たりの方は、当館まで（七八七―七八四〇）ご一報下さい。

（前　図書館事務課長
現　庶務課長）

バブル崩壊後の就職

就職課長　中村英夫

「もう少し早く生まれていたら…。」今春卒業生の繰言である。

日本経済が行き詰まり、雇用情勢が極端に悪化したのは一九九二年度の就職活動のピークが過ぎた夏以降からであった。明けて一九九三年度、情勢は一変。売手市場から買手市場へと立場が逆転した。

求人中止を連絡してきた企業は一一〇社に達し、卒業生が数多く働く大手メーカーが軒並みここに名を連ねた。「リストラ」（事業の再構築）のニュースがマスコミで報道されない日はなく、人員削減計画の公表はあらゆる業種に亘った。

就職難の到来が予想されたため、一九九三年度の二年生には慣例を早めて一年次の十二月から就職ガイダンスを行い、就職意識の高揚と準備を図り、同時に大企業志向から中堅、中小企業への切り替えや事務職中心の求職活動の修正を試みた。だが一年前の売手市場の名残りのあった先輩達の就職活動を眼にしている学生が雇用の冷え込みを実感するには時間と体験が必要であった。

バブル崩壊後、求人のピークは六月のみとなり、この時期の就職試験に失敗した学生は辛酸を嘗めることになった。就職課では応募期限が過ぎた企業に次々と求人の有無を問い合わせたが、「求人中」の返事を得られた企業は数えるほどであった。

一九九三年度の求人件数は、前年の六二％で一〇五〇件（保育関係を除く。保育関係は同八〇％の二一三件）と非常に減少したが、希望者一人当りでは一・五件あり、他の要素を考慮しても全員の内定獲得は可能であった。にもかかわらず就職率はようよう九〇％に達した状況で七〇数名を無職のまま卒業させてしまった。

原因は何か。本学学生のライバルである四年制女子大生の多くは、バブルが膨らんでいたころも諸般の事情で中堅、中小企業に就職せざるを得ず、そのためバブル崩壊後も積極的にこれらの企業にアプローチしていた。これに対して本学学生はいわゆる大手企業に毎年七五％以上もの学生が就職していたためいつしか学生も父母も、そして学校もそれが普通と錯覚していたのかも知れない。事実、中堅、中小企業への応募者は少なく、応募がないからと本学に求人をしなくなった企業もあった。中堅、中小企業のリサーチ、アプローチの遅れが「どしゃぶり」とも、「氷河期」ともいわれる雇用情勢の中で就職を困難ならしめた最大の要因である。

来春卒業生の就職活動は今（五月末）たけなわである。景気に明るさがみえても雇用はなお「氷河期」であり、特にこの雇用低迷は不況と企業構造の変革に起因するため、雇用意欲は前年以上に衰え、採用中止の通告も大手企業を筆頭に昨年を上回るペースで増加している。とはいえ、昨年の二の舞はなんとしても避けねばならない。学生には中堅、中小企業の企業研究を深めさせ、就職課はこの資料収集に一段と力を注ぎたい。卒業生の皆さんには関係企業の資料の寄贈をお願いしたいし、さらに求人もいただければ感謝である。

バブル崩壊後の雇用環境は厳しいが、これまでがむしろ異常だったともいえる。いまこそ学生一人一人がライフスタイルを考え、職業観を確立し、そこに位置付けるという本来の姿に立ち返る時である。学校はその道標の役割を果たしたい。ご支援をお願いします。

求めよ、さらば与えられん。尋ねよ、
さらば見出さん。門を叩け、さらば開かれん。

（マタイ七―七）

〈日本比較文学会東京大会へのお誘い〉

日本比較文学会の東京大会が、十月十五日一時より、本学で開かれます。日本比較文学会は、日本の文学・文化と諸外国のそれとの比較、影響関係等についての研究を深めることをめざして設立された学会で、日本のほかヨーロッパ、アメリカ、アジアなど各国の研究者による国際的組織である国際比較文学会（I・C・L・A）を構成する有力な学会の一つでもあります。東京大会は日本比較文学会の東京支部の大会で毎年一回開かれ、活発な研究報告と交流が行われております。

当日は、本学英文科で「英文講読Ⅲ」他を、国文科で永年「外国文学」を講義してこられた小玉晃一先生（元本学英文科助教授、現在青山学院大学教授）や、国文科で一昨年まで「漢文講読」を担当された川崎宏先生（元本学国文科教授、現在「明治村通信」編集人）も発表なさいます。

小玉先生の演題は「神奈川と比較文学」と題するもので、横浜・鎌倉・逗子など神奈川県の風土と日本の近・現代文学との関係、およびそれに影響を与えた外国文学について発表なさる予定です。奥様の小玉敏子先生と共著で『明治の横浜』（一九七九、笠間書院刊）なども出しておられ、神奈川と比較文学の関係について造詣の深い先生だけに、興味深い話を聞かせて頂けるものと思われます。

川崎先生はライフ・ワークである中野逍遙について発表なさいます。中野逍遙は、一般にはあまり知られてはいませんが、明治初期の漢詩人で、西洋文学の影響のもとに伝統的な漢詩の革新を企てた人で、明治文学にも多大の感化を及ぼし、その詩は日夏耿之介らによって高く評価されています。惜しいことに若くして亡くなりましたが、今年は彼が夭逝してから百年目にあたり、今回の発表はそれに因んでのものでもあります。

また、国文科の草創期に、やはり「外国文学」を講義して頂いた剣持武彦先生（清泉女子大学教授、日本比較文学会東京支部長）も、上田敏ら「文学界」についてのシンポジウム（安川定男中央大名誉教授、山田博光帝塚山学院大学長他参加）の司会をなさいます。

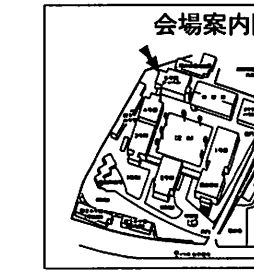
当日は、会員の他に、一般の皆様の御来聴も歓迎致します。とりわけ、英文科・国文科の卒業生の皆様には懐かしい先生方の話を聞くことのできる絶好の機会かと存じます。学生気分に返って、母校を訪ねられたら如何でしょうか。お待ちしています。

なお、プログラム等詳細は九月末に出来上りますが、会場、時間等は次の通りです。

日時　一九九四年十月十五日（土）
　　一時～五時
場所　関東学院女子短期大学
　　五号館　二〇一、二〇三、
　　二〇四教室及びチャペル
問合せ先
　　〇四五―七八七―七八八三
　　国文科演習室　佐藤庸子

なお、当日は紀伊国屋書店による比較文化展も開かれる予定です。

会場案内図



母校ニュース

▽新任教職員紹介

帆苅　猛先生
一般教養　助教授、
宗教主事
キリスト教概論
関東学院大学神学部卒業
京都大学大学院修了

香取真理子先生
英文科　講師
Reading & Writing, Composition
成蹊大学卒業、米国イリノイ大学院修了

金本　孝子さん
家政科　教務職員
関東学院女子短大
家政科　平成六年卒業

和田　弥生さん
家政科　教務職員
関東学院女子短大
家政科　平成六年卒業

中西　亜子さん
図書館事務課
事務職員
関東学院女子短大
国文科　平成六年卒業

▽新たに専攻科食物栄養専攻を設置

卒業生の皆さんには、いち早くお知らせいたしましたが、家政科に昨年十二月二十一日付けで、本年四月一日開設、入学定員十名、就業年限一年の専攻科が、文部省より認可されました。また、この専攻科で修得した単位は、四年制大学の科目等履修生として修得した単位と合わせて、学位授与機構に学士の申請をすることも認められました。さらに栄養士養成施設としても三年制の課程として認められ、卒業後一年の実務経験を経ていれば管理栄養士の受験資格を得ることができます。

第一期生は七名。全員本学卒業生です。皆さん食関連分野のスペシャリストを目指して頑張っています。

▽姉妹校オタワ大学へ四名が巣立ち

平成五年度卒業生の、石田博美さん、金子もえ美さん、服部暁子さん、林友実さんの四名が学内選抜に合格し、五月二十二日、米国オタワ大学へ元気に出発しました。

また、交流締結後の第一回目の卒業生が、本年五月に優秀な成績で卒業されたとの報告がありました。

▽旧短大本館を取壊し、Scince & Culture Center へ

すでに関東学院大学十号館として使用されていた旧短大本館（四階にかまぼこ型の大教室のあった建物です。）がいよいよ取り壊され、地上五階、地下一階建て、七〇〇人収容の大ホールを備えた校舎に生まれ変わりました。この校舎で学ばれた卒業生の皆さんには淋しいニュースになってしまいましたが、発展する関東学院を見守って頂きたいと思います。

編集後記

「香葉」二十三号を学舎の香りを載せて届けます。新企画として〝訪問記〟を連載していく予定です。各分野でご活躍の諸先輩方のお話などいかがでしたでしょうか。

一人でも多くの皆様のお便りを委員一同、心よりお待ちしています。

平成5年度決算				平成6年度予算
収入の部	予算	決算	増減	予算
会費	(@18,000×973) 17,514,000	17,514,000	0	(@18,000×949) 17,082,000
賛助金	500,000	782,500	△ 282,500	500,000
預金利息	10,000	5,183	4,817	5,000
雑収入	5,000	937,585	△ 932,585	5,000
前年度繰越金	2,976,096	2,976,096	0	4,243,532
合計	21,005,096	22,215,364	△ 1,210,268	21,835,532

支出の部	予算	決算	増減	予算
通信費	2,300,000	3,002,286	△ 702,286	3,000,000
印刷・製本費	2,000,000	1,514,447	485,553	2,000,000
総会・会合費	2,200,000	1,354,707	845,293	2,200,000
交通費	500,000	409,680	90,320	500,000
用品費	150,000	41,035	108,965	600,000
備品費	100,000	15,959	84,041	200,000
委託費	800,000	623,814	176,186	700,000
謝礼費	350,000	23,914	326,086	200,000
消耗品費	80,000	62,470	17,530	100,000
人件費	3,000,000	2,539,350	460,650	3,000,000
合同同窓会分担金	(@300×973) 291,900	291,900	0	(@300×949) 284,700
新入会員歓迎費	1,500,000	1,384,320	115,680	1,500,000
慶弔費	700,000	153,645	546,355	700,000
香葉会奨学金	720,000	480,000	240,000	(奨学金基金) 2,000,000
雑費	13,196	15,825	△ 2,629	50,832
予備費	300,000	58,480	241,520	300,000
特別会計	1,000,000	1,000,000	0	2,500,000
名簿発行準備金	5,000,000	5,000,000	0	2,000,000
(小計)	21,005,096	17,971,832	3,033,264	21,835,532
次年度繰越金	0	4,243,532	△ 4,243,532	0
合計	21,005,096	22,215,364	△ 1,210,268	21,835,532

賛助金をご寄付くださった方へのお礼とお願い

今年も後記の方々から総額「七十八万二千五百円」をお送り頂き、厚く御礼申し上げます。諸物価の値上げにより、年々「香葉」の発行がむずかしくなってまいりましたが、卒業生唯一の雑誌を存続したいと、編集委員一同がんばっておりますので、今後共賛助金のご協力をよろしくお願い致します。

一九九三年度賛助金寄付者（敬称略）

村岡愛子　稲垣愛子　小手幸子
古澤睦美　渥美裕子　松田良子　松野文子
山口倫子　上田敦子　松上尊代　永末智子
小峰節子　守屋和子　榎真由美　石崎キク
黛　博子　長崎洋子　二見直美　園田靖子
岸本有加　藤城栄子　澤島時子　須田広子
石渡朝子　土山　忠　早川寿子　木村燁子
古城房子　野中静子　楓　桂子　熊谷君代
須藤和子　相馬栄子　大川幸子　小椰香苗
設楽栄子　中野雅子　長部富子　清藤洋子
松田初枝　佐藤美代　岡部良子　茅　昌子
森　禎子　加瀬雅子　相澤文子　吉田年江
髙橋洋子　中山涼子　関　令子　木本美奈
平田順子　中里玲子　山田信子　菅藤早苗
芥田有子　髙山政子　小濱朝子　斎藤弘江
髙橋静子　中野明子　内田幸子　安藤弘子
柳　美子　臼田修良　玉木宮子　髙橋玲子
城かよ子　福井英子　髙野智子　浅葉勝美
須山和子　光畑　清　遠藤百合　中根悦子
中谷純子　桐原千恵　大内朋子　坪井　昇　川島久里
新　福　泉　沖野啓子　平井道子　深澤嘉代
黒山恵子　タハ　茜　髙山友美　大路佳子
和知章子　永瀬　薫　田中直子　徐多恵子
近藤睦子　遠田順子　原嶋曜子
上倉幸代　徳江美和　栗林芳恵
飯田冴子　馬渡正恵　山内晴美　篠原愛子
堺　典子　菅野弘恵　下平　愛　吉田年江
加藤裕子　菊地和子　神部映妙　井村かず江
森　静恵　嶋津恵子　井田玲子　服部道子
山田祥枝　山口周子　川口美樹　菅原千代子
谷山章子　丸山真紀　越智協子　伊與木順子
中川あや　福崎浩子　田中晴子　奈良喜美枝
滝本須美　小田牧子　岩堀迪子　鈴木みどり
平間敦子　厚東正子　塚本令子　中津川久美子
石守ゑみ　寺内雅子　籏智裕美　佐藤真理子
斉藤照子　千田節男　小島純子　細田喜久子
近藤早苗　菅野富子　澄谷亮子　江波戸房子
野田敏子　重田和子　内田駒子　松葉サチ子
洞口則子　伊藤孝子　鈴木廸子　山内奈緒子
大澤尚美　杉山愛子　髙橋秀子　霜田さよ子
安藤憲子　鈴木清子　鶴見智子　蔵田あけみ
梅山治子　勝原明美　土屋幸枝　小林三恵子
大西時雄　三澤葉子　三浦幸子　白石ひろみ
鈴木千恵　金子一美　石川明美　五十嵐節子
岩澤克恵　羽鳥京子　津端玲子　曽我かおる
相原陽子　小谷泰子　佐藤久子　大越公平
根本　京　田辺和子　畠山史恵　大越ひろ
原由美子　花岡淳子　嶋田恵美　髙斎香代子
田牧洋子　宮澤順子　杵渕綾子　増田妙喜子
梁島庸子　朝木圭子　薮登喜子　芦部九女夫
増田安喜子　髙橋美知子　山本長生　林純子
村田麻由子　浅井ちさと　渡部勉　吉屋保子
芳賀美佐緒　加来真千子　小林寿恵子　阿部典子
久保口勢津子　三代川典子　松友明見　柳生二三
清田恵美子　梅山フク江　飯田染子　安彦潤子
杉崎日出子　髙橋みどり　井上多恵子　志賀ミチ
福田しほり　日原美登里　馬屋原麻里　葛城容子
汲沢さと子　横部久仁子　馬屋原有利子　小林守信
濱田二三栄　大石豊代子　鈴木恵美子　飯吉玲子
飯塚まり子　井口安喜子　相吉典子　平尾富子
小出美智代　福間世紀子　岩本文子　渕上龍美
錦織マサ子　日下利枝子　明石昌子　益昌子
髙橋美佐子　永井八千代　山本美子　松本久子
三田村有希子　田丸瑠実子　髙橋咲子　佐藤みち子
関口眞喜子　五十嵐増枝　山崎恵子　吉田由美子
古郡綾子　三澤由美子　村井英子　山口はるみ
大島好恵　後藤美和子　山本桂子　匿名希望一名
森野恵理子　川面さゆり　佐生貴子
岩野由美子　剱持知圭子　小嶋美佐子
佐々木晶美　市山久美子　宮地みさ子
小林美智子　山本瑠美子　中西愛子
石田不二子　雨宮慶子　長谷川不二恵
小林千鶴子　斎藤比子　保科恭子
武田由紀子　八木智恵子　岡崎敬子
三野宮恭子　渡辺亮子　積田昌子

（一九九四・三・三一日迄）

先輩諸姉へ求人のお願い

本学卒業予定者の就職活動につきましては平素より暖かなご援助、ご協力をいただき感謝申し上げます。おかげで毎年、たくさんの求人をいただき、希望者のほぼ全員が職を得、晴れて学窓を巣立ってまいります。

ところで昨今の国際化の進展に伴い、本学にも外国人留学生が毎年数名入学しますが、これらの学生の就職活動は困難を極めております。つきましては、母国語と日本語の最低２ヶ国語を扱う彼女らにも就職の機会をたくさん与えたいと存じますので、求人のお話がございましたら就職課にお知らせくださるようにお願い申し上げます。

〒236 横浜市金沢区六浦町4834　Tel（045）787－7868
関東学院女子短期大学就職課

香葉 第24号

平成６年９月25日　印刷・発行
関東学院女子短期大学・香葉会
代表者　古城房子
横浜市金沢区六浦町4834　郵便番号236
関東学院女子短期大学内
電話《045》787－7859

関東学院同窓会・香葉会誌